教えるための参加
学ぶための参加

－年少者向け空手教室における指導-学習過程の分析－

名塩 征史（なしお せいじ）
広島大学

1. はじめに

- 特定場面における活動のマルチモーダル分析
  - 理容室における理容師と客の相互行為（名塩 2017a; 2021a; 2022［近刊］）
  - 長唄三味線の稽古（名塩 2020; Nashio 2022［in press］）
  - 年少者向け空手教室（名塩 2017bc; 2020; 2021b）

⇩

- 武道・身体教育
  - 心身の鍛錬：精神と身体の相互作用を前提とする指導／学習
  - 言語化や体系化が難しい知と技の伝承
  - 師弟関係：指導者-学習者間の非対称な相互行為

1. はじめに

相互行為論的アプローチによる 空手 の指導-学習場面のマルチモーダル分析

スポーツ・格闘技（Okada 2013, Stukenbrock, 2017）

武道（伝 2016, 2020, 名塩 2017bc, 2020, Råman 2019）

- ◆ 現代のあり方に至るまでの歴史と伝統
- ◆ 伝統に裏打ちされた形式と理論

主軸となる理念・**稽古法** に反映

本日のポイント

空手（学ぶ／教える対象）と稽古（指導-学習活動）

→ 稽古が備える「空手の叡智を身につけるための仕組み」とは？

→ 稽古への参加にあたって参与者に求められるものとは？

→ 稽古式指導-学習過程を他の教育へと応用することは可能か？

2. 空手を教える／学ぶ

* 藤田(2002, 2004)

** Drew & Heritage (1992), Lindström et al. (2017)

2.1 稽古とは？ (田中ほか 2009)

訓練を重ねることによって、さまざまな規格を身につけること

「**芸／技を盗む**」に適した環境

熟練した者（師匠／師範）の
芸／技を観察し、真似すること

- 学習者による主体的な学びの必要性
- 「言葉にすることが控えられる」という伝統技術の伝承における慣習*
- 指導者-学習者間の非対称性**を前提とする相互行為

指導者による指示・助言・コメント
← 学習者による限られた反応:「言われた通りに動く」「押忍」

2. 空手を教える／学ぶ

2.2 型（形）

攻撃（打突・蹴り）や防御（受け・払い）を為す腕や脚の基本動作をいくつか組み合わせた一連の行動パターン（名塩 2020）

形式と理論の象徴として登場した稽古形態（盧山・極真館技術委員会 2018）

武道としての普及や伝承に必要とされる形式美・理論

→ 言語化が難しい空手の技術を身体と感覚をもって会得するために生み出された身体動作の基本形式

→ 実戦（組手や試合など）の経験によって活性化され、その意義が証明される

2.2 型（形）　（大庭 2021）

◆ 特定の叡智を内在するパッケージ

- 決められた一連の動作から構成され、それぞれの武道の核心となる技・業を伝える教範
- 内在する心身の叡智の保存・再現・伝達を前提とした、叡智の共有化を表現する方法

◆ 非分析的な把握と伝達の手段

- 手足といった部分を全体の身体操作の中に位置づけ、特定の部分に着目するのでは獲得できないような働きを体得する手段
- 心身の叡智の「把握」（↔「理解」）：心身の全体を部分の完全な理解を介せずにつかむ

⇒「型」と同一化して自身に内在化する

◆ 「型」に嵌らない

- 「型」は身についた後、「型」の設定から自由となり、一部分を抜き出して利用可能
- 状況に応じて「型」で学んだ叡智が心身の動きとして発露

個々に特有の経験と身体

2. 空手を教える／学ぶ

2.3 稽古に求められるもの

1. 心身の叡智を備える「型」と同一化して、自身に内在化するための活動

→ 再現性を活かした実践の繰り返し／「師」の「型」を真似る

2. 把握した叡智が心身の動きとして発露するのを促す活動

→ 相手との対峙を意識させる／「師」の経験を共有

稽古の形式や構成にどのように反映されているか

教える者と学ぶ者のどのような参加の仕方に支えられているか

※ 稽古 = 団体練習

3. 分析

3.1 データの概要

年少者向け空手教室での稽古場面（約２時間半）

【撮影時期】2016年9月

【場所】静岡県静岡市内某所

【主な参与者】

師範 M : 教室全体の統括と運営を担う有段者

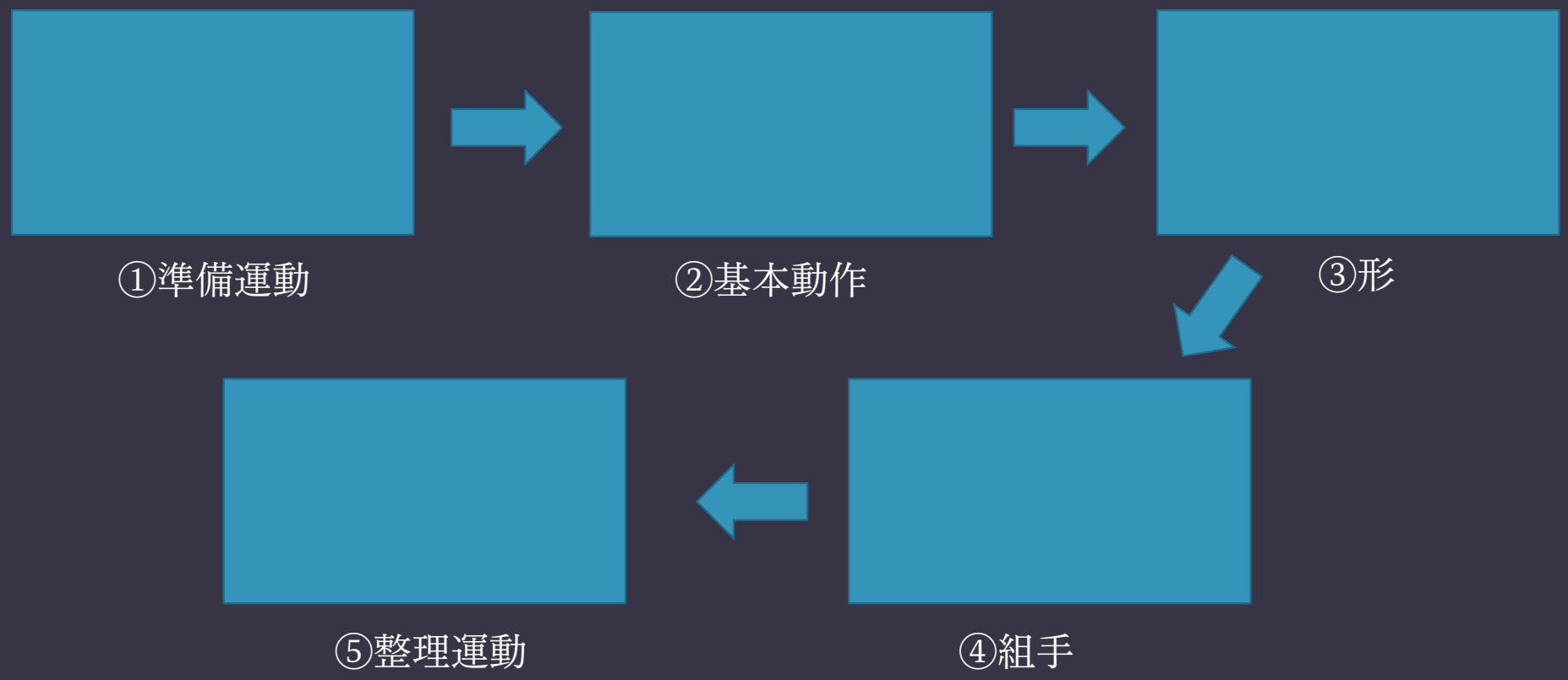
指導者 I : 有段者として練習生の指導に当たる成人男性（２名）

練習生 S : 有段者ではないが I とともに見本を示すこともある成人男性（２名）

練習生 s : 小中学生の男女（20名前後）

3. 分析

3.1 データの概要



3. 分析　3.2 稽古の構成

「型」の反復
同一化 → 内在化

一定の構えから繰り出される
攻撃（打突・蹴り）
防御（受け・払い）
を為す腕や脚の一振り

②基本動作

例）正拳中段突き、下段払い

基本動作をいくつか組み合わせた
一連の行動パターン

例）太極、平安、観空、安南

③形

④組手

相手と対峙する実戦形式
「型」から外れた状況

空手の心身　→ 発露？

3.3 基本動作と形（名塩 2017bc; 2020; 2021b）

【基本動作の反復】 指導者I 、もしくは師範Mが発する 号令 に合わせて各基本動作を反復

1. I/Mが技の名前を言う
   → S&sが技の名前を繰り返す
2. I/Mの号令（1~6）に合わせて技の反復
3. I/M:「気合い入れて！」
   → S&s:「せい！」
4. I/Mの号令（1~10）に合わせて気合いと共に技の反復

3.3 基本動作と形

【形の演武】

Ⅰ. 師範Mによって発せられる
号令 に合わせて各工程を順に演武

1. 形の名前を明示
2. Mの指示（「用意」→ 号令 →「直れ」）に従って形の演武

Ⅱ. 練習生 s によって発せられる
号令 に合わせて各工程を順に演武

1. 形の名前を明示
2. s の指示（「用意」→ 号令 →「直れ」）に従って方の演武

3. 分析　3.3 基本動作と形

* cf. Stevanovic & Peräkylä (2012), Stevanovic & Svennevig (2015), Szczepek Reed et al. (2013)

号令 に対する練習生の反応 <Direction - Reaction> が稽古の基調*

実践される一つ一つの動きを活性化し技へと高める

Mの指導

- 練習生に不足する「実戦の経験」を補完
- 想定する相手（接触する対象）の具現化

3. 分析　3.3 基本動作と形

号令 に対する練習生の反応 <Direction - Reaction> が稽古の基調*

実践される一つ一つの動きを活性化し技へと高める

- 練習生に不足する「実戦の経験」を補完
- 想定する相手（接触する対象）の具現化

Mの指導

聞こえる声

見える動き**

<基本動作>自身よりも習熟度の高い者が視界に入る並び
<形>練習生から見える位置への移動

** 「何をどうやって行うべきか」
を直示する身体動作
（Craven and Poter 2010）

3. 分析　3.3 基本動作と形

号令に対する練習生の反応 <Direction - Reaction> が稽古の基調*

実践される一つ一つの動きを活性化し技へと高める

- 練習生に不足する「実戦の経験」を補完
- 想定する相手（接触する対象）の具現化

Mの指導

聞こえる声

見える動き**

<基本動作>自身よりも習熟度の高い者が視界に入る並び
<形>練習生から見える位置への移動

練習生による号令

→ 指導から一部解放された自立／自律した演武へ

3. 分析　3.3 基本動作と形

指導上の便宜を反映する
稽古として組織化

号令 に対する練習生の反応 <Direction - Reaction> が稽古の基調

実践される一つ一つの動きを活性化し技へと高める

- 練習生に不足する「実戦の経験」を補完
- 想定する相手（接触する対象）の具現化

Mの指導

聞こえる声

見える動き

<基本動作>自身よりも習熟度の高い者が視界に入る並び
<形>練習生から見える位置への移動

練習生による 号令

演武を邪魔しない位置取り

自律学習へ

→ 指導から一部解放された自立／自律した演武へ

工程間の連接を含む一連の動き　→ 真に同一化を目指す形／型への到達

3. 分析　3.4 組手

- 等級（年齢）が下のものから順に３～４対のペアとなり、各ペアで１分前後の組手を行う
- 師範の「構えて→はじめ」の合図で対戦が始まり、約１分後の「やめ」の合図で終了
- １名を固定した状態でその他の者が左回りに動き、ペアを変えて同じく対戦を繰り返す
- 全員と対戦が終了したら、次の３～４ペアと入れ替わる

- 低学年（小学生？）同士の対戦では各ペアに成人のサポートが付く
- 師範は全体を観察しながら適宜指導を加える

3. 分析　3.4 組手

【師範M】戦術の指導　→「型／形」から外れた状況への対応

- 今ここにいる相手の動きに合わせて「インタラクションを見せる」指導
- 練習生の実践から「悪い例」をピックアップして身体的に提示
  →「良い例」を提示しつつ「悪い例」との対比をもって指導*

* Keevallik (2010)

【練習生S&s】「学び合う組手」と「見せる組手」の切り替え

事例５

01　M:　はい，{NAME-s4}やめやめやめ::

02　　はい，続けてください

03　　[相手にどうしてもやられてるときにこう

04　*M:*　[*(S2に近づく*[----------[→)

05　*S2:*　　[*(構える)*　　[*(構える)*

06　M:　下がっ，下がってるときさっきも[説明したけども，

07　*M:*　　[*(頷き+右手)*

08　M:　あの:，両脚で，[踏ん張ることが大事だからな

09　*M:*　　[*(→s4)*

10　M:　そのときにこう，蹴らない　**悪い例**

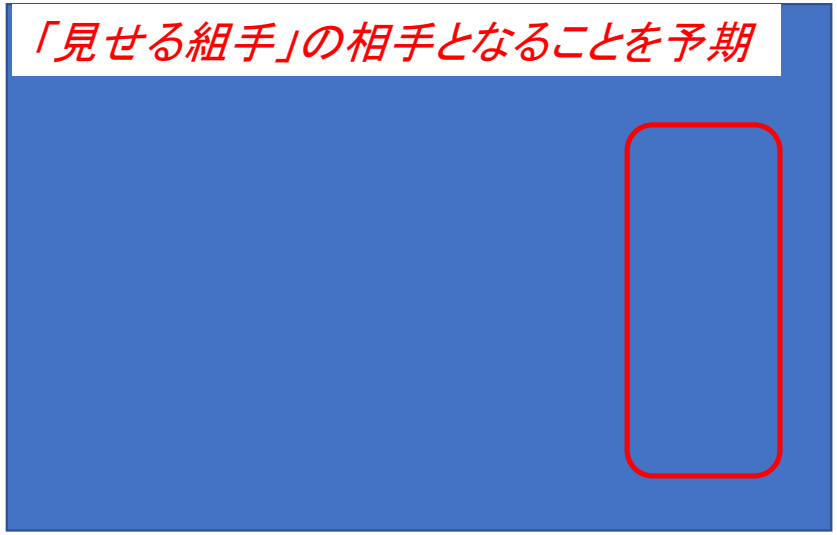
11　*M:*　*(頷き+右手)*

12　M:　相手に,相手の方が圧力が強くて下がった場合にも

13　　脚を[しっかり踏ん張って

14　*M:*　　[*(両太腿を叩く)*　**良い例**

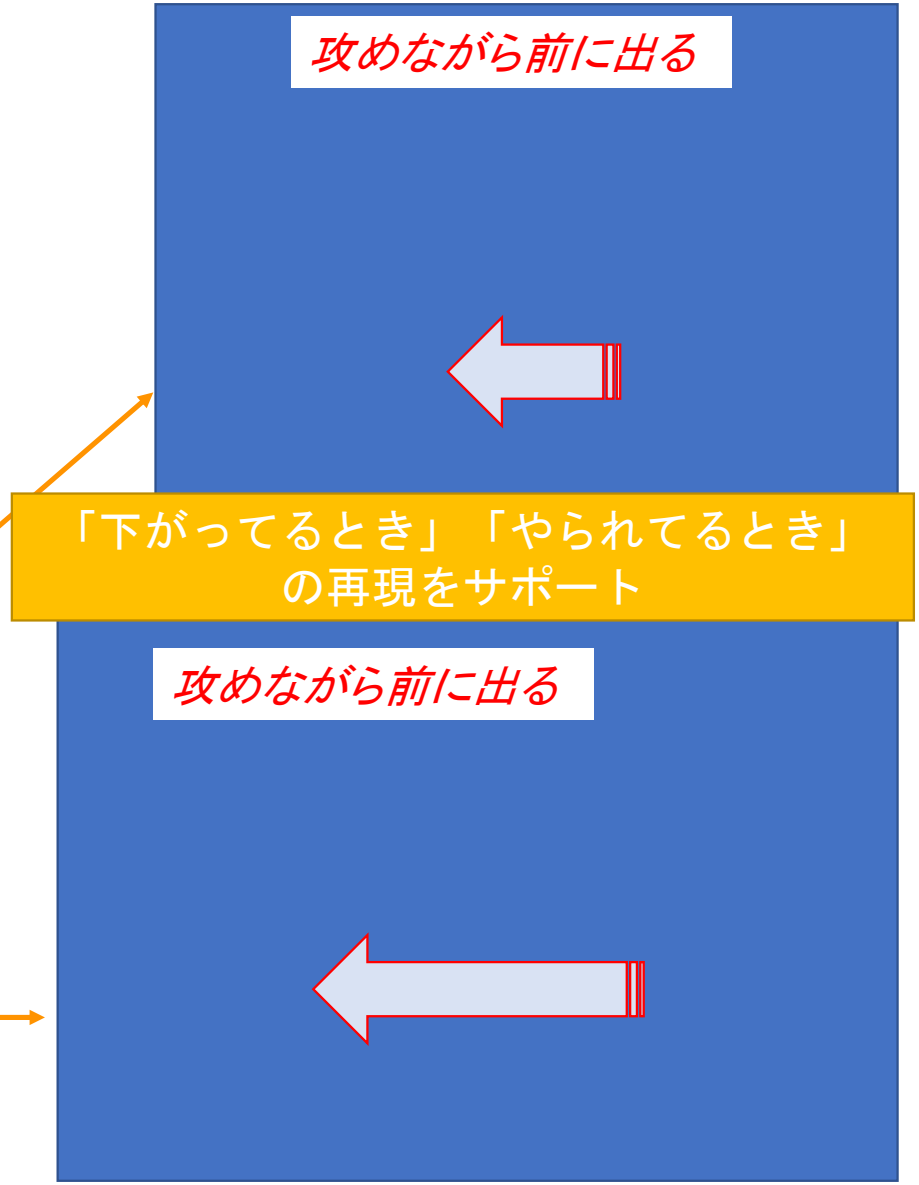
15　M:　打ち合う，まず打ち合う，まず打ち合う



「宛先の二重性」
（伝 2016）

事例５

01　M:　はい，{NAME-s4}やめやめやめ::
02　　はい，続けてください
03　　[相手にどうしてもやられてるときにこう
04　*M:*　[*(S2に近づく*[----------[→*)*
05　*S2:*　　[*(構える)*　　[*(構える)*
06　M:　下がっ，下がってるときさっきも[説明したけども，
07　*M:*　　[*(頷き+右手)*
08　M:　あの:，両脚で，[踏ん張ることが大事だからな
09　*M:*　　[*(→s4)*
10　M:　そのときにこう，蹴らない
11　*M:*　*(頷き+右手)*
12　M:　相手に,相手の方が圧力が強くて下がった場合にも
13　　脚を[しっかり踏ん張って
14　*M:*　　[*(両太腿を叩く)*
15　M:　打ち合う，まず打ち合う，まず打ち合う



事例５

01　M:　はい，{NAME-s4}やめやめやめ::
02　　はい，続けてください
03　　[相手にどうしてもやられてるときにこう
04　*M:*　[*(S2に近づく*[----------[→*)*
05　*S2:*　　[*(構える)*　　[*(構える)*
06　M:　下がっ，下がってるときさっきも[説明したけども，
07　*M:*　　[*(頷き+右手)*
08　M:　あの:，両脚で，[踏ん張ることが大事だからな
09　*M:*　　[*(→s4)*
10　M:　そのときにこう，蹴らない
11　*M:*　*(頷き+右手)*
12　M:　相手に,相手の方が圧力が強くて下がった場合にも
13　　脚を[しっかり踏ん張って
14　*M:*　　[*(両太腿を叩く)*
15　M:　打ち合う，まず打ち合う，まず打ち合う

「見せる組手」の相手

師範の意図を汲みつつ「良い例」「悪い例」を再現するための状況を共に設定する

攻め込まれながらも
脚を止めて「打ち合う」

3. 分析　3.4 組手

【師範M】戦術の指導　→「型／形」から外れた状況への対応

- 今ここにいる相手の動きに合わせて「インタラクションを見せる」指導
- 練習生の実践から「悪い例」をピックアップして身体的に提示
  →「良い例」を提示しつつ「悪い例」との対比をもって指導

【練習生S&s】「学び合う組手」と「見せる組手」の切り替え

稽古：練習生同士が共に学び合う

組手：互いに有効打を狙ってせめぎ合う

状況に応じて師範と共に「教える身体」になる

⇒ <相互理解> 自己の学びへの姿勢が他者の学びにも影響

4. 考察：教えるための参加・学ぶための参加

4.1 稽古と「型」

技／形の演武、組手

稽古 → 空手を 教える ／ 学ぶ

叡智が内在する「型」の提示
同一化の促進と評価
想定（相手）の具現化
「心の技」の言語化*

見る ✔ 聞く ✔
追従する（号令に合わせて動く ✔ ／真似る）
合致 ＝ 叡智の把握

教える身体

多様なモードによる
学習リソースの発信

相互行為

学ぶ身体

学習リソースを受容・咀嚼
動きとして表現

稽古 ⇒ 「型」の動的な側面

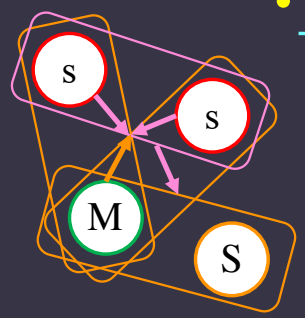
* cf. 「わざ言語」（生田 1987）

4. 考察：教えるための参加・学ぶための参加

4.2 共に教える・共に学ぶ

稽古の枠組み　組手 → 「型」の設定から自由となる空手の実践

相手とどう対峙するかは個人の問題



- 相手と共に学び合い、発露を促し合う

⇒対を成す二つの身体間に構築される学びのシステム

!! 一方の身体における不備がシステムを不活性化

M: 組手してやれ！

- 他者のために「見せる組手」の一部になる

⇒インタラクションを見せる指導を実現する教えるシステム

5. まとめと今後の課題

【稽古という活動】
- 型に込められた叡智の伝承にかかる仕掛けを活性化
- 型との同一化、叡智の把握から発露までの流れを促進し、型の効果を存分に引き出し、享受するための活動

【教えるための参加】
- 号令を駆使した活動の組織化
- 「聞こえる声」「見える動き」で学ぶべきものを提示
- 経験の共有を目指す様々な工夫（想定の具現化／相手を演じる）

【学ぶための参加】
- 指示に従って動く／繰り返す
- 指導を見る／聞く
- 共に学ぶ他者との協同

相互理解・積極性

5. まとめと今後の課題

基盤研究(A)「日常場面と特定場面の～」> 武道SG

→（2021年度～）基盤研究(C)「武道における指導-学習過程の相互行為分析」

身体に内在する知の伝承にかかる理論と方法
→ 一般化して応用

型
叡智をどのような形式で保存するか

稽古
どのように「型」を実践するか

伝承の対象
空手

- 伝統芸能
- スポーツ
- 職業技術
- 礼儀作法

口伝／伝書の役割は？

独習の可能性？

（内藤 1992）

参考文献

Craven, A. and Poter, J. (2010). Directives: Entitlement and Contingency in Action. *Discourse Studies*, 12(4), 419-442.

伝康晴 (2016).「身体的インタラクションを提示して教授する：柔術の技術指導場面から」『日本認知科学会第33回大会論文集』, 201-206.

伝康晴 (2020).「他者の身体を取り込む －柔術の間合い」諏訪正樹(編著)・伝康晴・坂井田瑠衣・高梨克也(著)『「間合い」とは何か －二人称的身体論』春秋社, pp. 193-218.

Drew, P., and Heritage, J. (1992). Talk at Work: An Introduction. In Drew, P., & Heritage, J. (eds), *Talk at work: Interaction in institutional settings*. New York: Cambridge University Press.

藤田隆則 (2002).「能の音楽の伝授 －身体的な繰り返しと「ことば」－」『人文學報』, 86, 295-309.

藤田隆則 (2004).「知識と能力の差が前提となる演奏スタイル －能の「平ノリ」を解釈する」『国際研究論叢』, 17(3), 25-40.

生田久美子 (1987).『「わざ」から知る』東京大学出版会.

Keevallik, L. (2010). Bodily quoting in dance correction. *Research on Language and Social Interaction*, 43, 401-426.

参考文献

Lindström, J., Lindholm, C., Norrby, C., Wide, C. and Nilsson, J. (2017). Imperatives in Swedish Medical Consultations. In Sorjonen, M-L., Raevaara, L. & Couper-Kuhlen, E. (eds), *Imperative Turns at Talk: The Design of Directives in Action*. John Benjamins, pp. 299-324.

盧山初雄・極真館技術委員会 (2013).『空手道教範 天之巻』気天舎.

内藤武宣 (1992).『空手道独習教本』東京書籍.

名塩征史 (2017a).「理容室でのコミュニケーション－理容行為を〈象る〉会話への参与－」片岡邦好・池田佳子・秦かおり(編)『コミュニケーションを枠づける－－参与・関与の不均衡と多様性』くろしお出版 , pp. 237-256.

名塩征史 (2017b).「空手の基本動作を教授・練習する場の相互行為：統率の枠を超える参与者（師範）による個別指導の観察と分析」『日本認知科学会第34回大会発表論文集』, 221-228.

名塩征史 (2017c).「「何が始まるか」を伝える一振り：年少者向け空手教室における個別指導の間合い」日本認知科学会「間合い」研究分科会, *JCSS SIG Maai 2017 ,* 3(3), 1-9.

名塩征史 (2020a).「同時演奏を基調とする三味線の稽古場面のマルチモーダル分析－「演奏すること」を教授する対面・同期形式での指導－」『日本認知科学会第37回大会発表論文集』, 412-420.

参考文献

名塩征史（2020b）.「身体的技術の指導－学習過程における相互行為－年少者向け空手教室での「相手を意識した」経験の共有－」『社会言語科学』, 23(2), 100-115.

名塩征史（2021a）.「会話への途中参加を巡る動機付けと許容に関する認知語用論的考察－理容室でのコミュニケーションを対象とした事例分析をもとに－」田中廣明・秦かおり・吉田悦子・山口征孝(編)『動的語用論の構築へ向けて　第３巻』開拓社, pp.162-181.

名塩征史（2021b）.「空手の形（かた）の稽古に用いられる「号令」：実在しない相手との「間合い」」日本認知科学会「間合い」研究分科会, *JCSS SIG Maai 2021 ,* 2(9), 1-9.

名塩征史（近刊）.「日常会話を伴う理容行為に状況づけられた「見る」－－鏡を介して「見る／見せる」システムの分析」牧野遼作・徳永弘子・砂川千穂(編)『言語・コミュニケーション研究の地平　第３巻』ひつじ書房

Nashio, S. (in press). Interaction for Synchronization: Multimodal Analysis of the Process of Instructing and Learning Shamisen Skills. *The Bulletin of Morito Institute of Global Higher Education*.

Okada, M. (2013). Embodied interactional competence in boxing practice: Coparticipants' joint accomplishment of a teaching and learning activity. *Language & Communication*, 33, 390-403.

参考文献

大庭良介（2021）.『型の最高　科学から総合学へ』京都大学学術出版会.

Råman, J.（2019）. Budo demonstrations as shared accomplishments: The modalities of guiding in the joint teaching of physical skills. *Journal of Pragmatics*, 150, 17-38.

Stevanovic, M. and Peräkylä, A.（2012）. Deontic Authority in Interaction: The Right to Announce, Propose, and Decide. *Research on Language and Social Interaction*, 45（3）, 297-321.

Stevanovic, M., and Svennevig, J.（2015）. Introduction: Epistemics and deontics in conversational directives. *Journal of Pragmatics*, 78, 1-6.

Stukenbrock, A.（2017）. Intercorporeal phantasms: Kinesthetic alignment with imagined bodies in self-defense training. In Meyer, C., Streesk, J., & Jordan, S. J.（Eds.）, *Intercorporeality: Emerging Socialities in Interaction*. New York: Oxford University Press, pp. 237-263.

Szczepek Reed, B., Reed, D., & Haddon, E.（2013）. NOW or NOT NOW: Coordinating restarts in the pursuit of learnables in vocal master classes. *Research on Language & Social Interaction*, 46（1）, 22-46.

田中悠美子・野川美穂子・配川美加（編）（2009）.『まるごと三味線の本』青弓社.

ご清聴ありがとうございました。